

2016年8月19日

2016年度第2回研究会（通算第64回）

チャリティセミナーの内容について検討した。

私たちは熊本被災ペット支援ネットワークとの共催で9月4日に福岡市内の動物看護専門学校を借りてセミナーを開催することにしました。しかし、当日は台風が接近したため10月2日に延期されました。延期したこともあり、当日は100名の定員の教室が95名の受講者で埋まりました。

最初に本研究会の会員であり、福岡県獣医師会の副会長である溜瀧真之先生が研究会の紹介と熊本地震に際して福岡県獣医師会がVMATの出動をしたこと、大分県九重町に動物を収容する災害支援センターを作ったことを報告しました。

次に名越先生が「自然療法への招待」と題して講演を行いました。現代の動物医療が多くの問題を孕んでおり、抗生剤やステロイドの安易な長期投与が引き起こす問題やワクチンの過剰接種がテンカンや腎不全や自己免疫性の疾患の原因となっている状況について説明しました。その上で漢方薬や鍼治療、ホメオパシー、ホモトキシコロジーについてその原理や適応症について概論を述べました。また、ペットの健康を保つためには治療や予防ばかりではなく、食事も大切であることを述べ、その後、ペットの防災について日ごろから行なうべきことの提案を行いました。

綿貫和彦先生は「漢方薬を中心とした東洋医学」について講演をされました。西洋医学の薬はスペシャリストで目的とする作用は切れ味が良く、強い作用を持っていますが、複数の症状には複数の薬が必要で、思わぬ副作用が見られることがあります。一方漢方薬はいくつかの生薬の組み合わせで、それも副作用が出ないように組み合わせられています。また、身体全体を治すことを目的としているので期待した以外の症状にも効くことがあります。昔からあるツムラの漢方薬だけではなく、今ではイスクラのペット用漢方薬もあるので投薬が簡単になり、特に高齢の犬の慢性疾患や認知症には良い効果があることが症例を交えて紹介されました。

迫秀樹先生は「ホメオパシーとホモトキシコロジー」と題して症例を中心にして講演されました。花火や雷の音を怖がる犬に **Phos. Ambra. Rhodo** が有効であったこと、車酔いの犬に **Tabacum. Petroleum. Coccus** を使用したこと、猫の腎不全に **Solidago. Ignasia.** が有効であったことなどをホメオパシーの有効例として述べました。またホモトキシコロジーの有効例としてテンカンの症例を取り上げ、2年前から週2~3回の発作があるフレンチが大学病院のMRI検査で原因が特定できず、フェノバル、ゾニサミドにも反応しなかったが、ホモトキシコロジーとホメオパシーの治療で初日からテンカン発作が止まり、その後3年間発作が起こっていないことを紹介されました。また、アレルギー皮膚炎や子宮蓄膿症の症例も紹介されました。

講演の後、質問が殺到しました。特に多かったのはワクチンの過剰接種と手作り食に関する質問でした。回収されたアンケートには今後も自然療法について学びたいこと、セミナーの内容がわかりやすかったことが評価されていました。ほとんどの人は初めて自然療法に触れたので今後選択肢の一つとして考えたい。また、ホメオパシーのセルフケアや手作り食についてのセミナーを希望する声もありました。

研究会の会員もセミナーの内容と反響に満足しており、今後も希望があれば別のテーマで開催を検討したいと思います。ネットワークからの報告によると 16 万円余りの収益金があり、被災ペットの支援金に使われたそうです。

次回の研究会は 11 月 25 日に開催します。